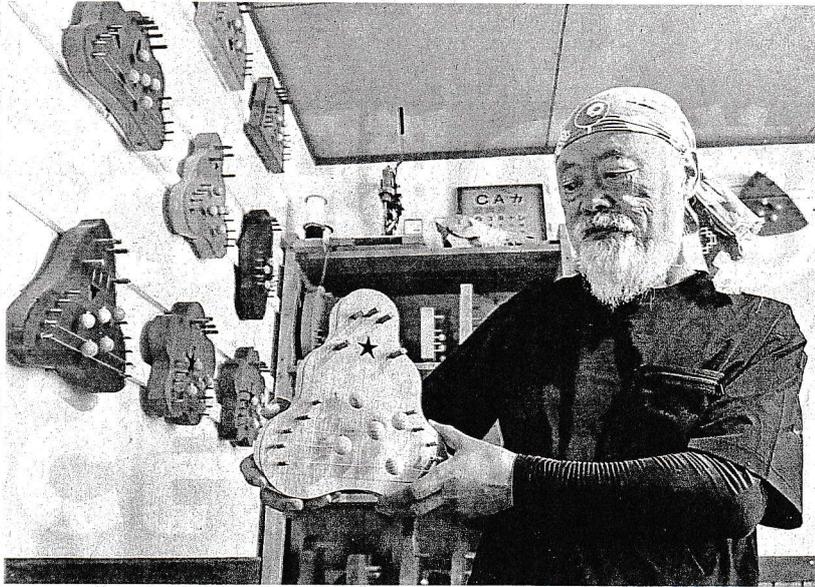


幸せ呼ぶドアリラ いかが



制作したドアリラを手にする本間哲朗さん
|| 米沢市万世町梓山

扉に取り付け、開け閉めの際に柔らかな音色を響かせる「ドアリラ（ドアハープ）」を制作している本間哲朗さん(68)の展示会が、米沢市万世町梓山の工房「ルーザの森クラフト」で開かれている。訪れた人たちは、豊かな自然の中でドアリラの音色を楽しんだり、周囲の森の散策を楽しんだりしている。

本間さんは南陽市出身。美しい風景が広がる森に暮らし、自身で人生のテーマとした木工に集中しようとして、県外での勤務などを経て30年ほど前に現地に移住した。以前から関心のあったものづくりには本腰を入れるため、2013年に工房を建設して制作に取り組んでいる。

ドアリラは、ドアの開閉により木の玉が本体の弦をはじいて音が出る仕組み。本間さんによると、ドイツや北欧などではドアを通して家に幸せが入ってくるよとされ、縁起物として扱われているという。本間さんは世界各地の伝統的な家の形を模し

米沢 制作の本間さん、工房で展示会

扉開閉で音色、独自デザイン

たデザインなどを考案し、音が出る「サウンドホール」には暖炉の炎をあしらうなど独自の意匠を凝らしている。

会場では、来場者がドアリラの響きに耳を傾けつつ、本間さんともに付近の緑を満喫する様子が見られた。本間さんは「『行ってきました』『ただいま』の際にドアリラが奏でる優しい音で日々の幸せを感じてほしい」とし「作品だけでなく、ドアリラを生み出している工房、それを包み込む豊かな森が織りなす雰囲気を一体的に感じてほしい」と話していた。

展示は6日まで。バッテリーやペーパーナイフなどの製品も販売している。問い合わせは本間さん0238(28)3982。

(斎藤健太)